

# なかま新聞

なかま新聞  
編集 新聞部員  
姫路市北条宮の町  
215 番地  
TEL079-287-1025

## 新春に想う

ことしは、戦後七十年という節目の年になります。ですが、私の戦後は、旧満洲（現・中国東北部）での放浪一年を経て、丁度、新憲法公布

の日の前日、博多港に着いたその日から始まったのです。その後、様々な道筋を経て、神経難病を抱えたまま九十一歳の齢を重ねることになりました。

さて、平成二十三年十一月に、第一号を出して、今号で四年目になります。「なかま新聞」ひとは、「シロウトの新聞発行など三号がいいところ」と言いますが、すでに十五号を重ねて、利用者をはじめスタッフやボランティアのみなさんから認められる存在になってきました。編集に関わる者として、まことに喜ばしきかぎりです。

話は一変し  
ますが、昨年  
もまた異常な  
気象や地変が

続きました。特に、八月の集中豪雨による広島市の土石流災害、九月には御嶽山の噴火災害などで、多くの人命が失われました。このような自然災害による悲劇は、十二月に入っても止みませんでした。

思わぬ大雪による徳島県西部山間地の一週間近くの孤立。さらには中旬に発達した低気圧による列島の風雪害。これらの災害は亦しても人命を奪いました。

このような現象は、一八世紀後半に始まったイギリスの産業革命つまり蒸気機関による大工場化、そのエネルギー源としての石炭、石油などの化石燃料による大気汚染に源があると言えましょう。

このような構図は、今世紀に入ってから先進国だけのものではなく、発展途上国をも含んだ地球規模のものとなって、曾ての廃棄ガス規制の京都議定書を改めるため、国連気候変動枠組み条約締結国会議（COP20）が、つい暮までペルーで開かれていました。その結果は、今年、パリで開かれるCOP21での新たな国際枠組みの取り決めまで

待たねばなりません。成果を期待したいものです。

ところで、暮に打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2号」は、生命の起源を探るのが目的で、そのために多くの技術者が関わってこられたとのこと。一方、地球上の日本では、今現在幾千幾万の人々が難病で苦しんでいます。そのため、今年から「難病医療法」が施行されました。ですが、この法律の目的即ち病因の究明と治療法の確立のためには、為政者の絶大なる尽力が求められます。大いに期待されることです。



初詣でにぎわう総社 岩村和雄

菊池 武明

年を重ねるごとに時の流れが速く感じられます。

ある写真家が自分の生きてきた道を古いアルバムから何枚かの写真を抜き出し物語風に貼り「自分史額」をつくり身近に見える所における提案をしました。なるほど古いアルバムは、積んだまま見ることはすくない。「自分史額」として、身近にみることで今を肯定し、これからの目標として生きる喜びを感じることができのではと思えます。

幸いなことに私たちには「あけび」という共通の場所を持つ仲間がいます。そしてそれをささえるスタッフの暖かい介護が何よりも大きな支えです。あけびでの楽しい写真が増えていきこれが人生の幸へと繋がっていくのだとおもいます。医学も急速な進歩が伝えられます。希望を持って生きることが「自分史額」と結びついていくのです。

詩人田村隆一の「生きる歓び」

人生痛苦多しと言えども／夕べには茜雲あり／暁の星に光あり

木下 素子





# 仲間の声

感謝いっぱい「かに旅行」

岡野 悦子

澄みきった冬空、しかも好天に恵まれた旅行でした。車窓から野山の紅葉を眺めつつ時の経つのも気づかぬ間に、早々に目的地の浜坂につきました。夜は旅館自慢の豪華な「かにづくし」本場ならではの絶品の数々をぞんぶんに堪能させて頂きました。食後のカラオケ大会も自慢の歌が披露され、なかでも吉原さんと池田さんのデュエットはすばらしく、もっと聞かせて欲しいと思つたほどでした。



今年こそ

船越 悦子

ふりかえってみると何かこれといった事はしていません。たとえ一つでも

前向き姿勢でやっていこうとするのですが体が思うようにならないの意志が弱いので途中でやめてしまいます。このくりかえしです。



今年こそは、たとえ小さな事でも実行してゆきたい。前向きに希望をもって明るく過ごそうと、心に決めました。

干し柿づくり 森 フミエ

私は子供の頃から、干し柿が大好きです。ここ二、三年、体調が思わしくなかったのですが、昨年の秋は元気を取り戻しました。

柿が豊作だったこともあって、思い立って干し柿づくりに挑戦しました。それで、渋柿の皮をむき、ロープにゆわえて軒下に干しました。

こんな私の姿を見られたあけびの利用者さんのある方が散歩の途中に柿を採って来て下さったのです。うれしかったです。十日ほど干してからあけびの皆さん

と美味しく頂きました。

今年の秋もまた干し柿作りが出来ますよう、元気に毎日を過ごしたいと思えます。

最高の気分 福永 正世

運転手・下雅意さんの運転は、いつものことながらやさしくそして安全運転。私達は、安心してゆったりとした気分がわいわいお喋しながら坐っていることが出来ました。下雅意さんは、乗り降りの時も手をさしのべて下さり、時には車も押して下さいました。ほんとうにありがとうございます。この紙上をかりて、お礼を申し上げます。

私は三回目の参加です。年に一度のカニツアアの旅、ちよつと冒険気分がワクワク。「行けるときに行こう」の声に誘われて参加したのに、急にもっと遠くへ、新幹線でどこかへと、気分は高揚するばかり。これも、ボランティアの方々やスタッフの皆さんのサポートのおかげで、安心感で一ぱいだったからなのです。

宿舎に着いてから、美味しいかに料理を頂きました。温泉には、夕方と二度目は早朝につかりました。その時、ご来迎を眺めることが出来ました。最高の気分でした。

人生感謝

大西 正

親への感謝を忘れる様な人は、子供からも感謝されない。今日一日の己の心の持ち方によって明日からの運命は大きく変わる。

感謝の心が笑顔を作り、笑顔こそ人の心を和らげる。与えた思いは覺えているが、受けた恩は忘れやすい子供にとつて最良の教育は、家庭円満より生まれる。自分の力を發揮できるのは、周囲の協力があるからである。たつた一言が相手を傷つけるだけでなく、自分の一生も変えてしまふことがある。総て感謝の気持ちで溶け込むことで悦びに充ちた運命が始まる。

後悔は明日の希望を失い、反省は明日の希望につながる。本当の愛は捧げつくすことで、願って求めるものでもない。

どんな仕事にも喜びを感じる人は、大きな仕事もやり遂げる。物はあるうちに尊べなくなつて初めて有難味を感じるものである。

私は、この人生の生き方、感謝の言葉が好きであり、日々気を付けているが、判ってもらえない様である。それらに負けず生きて行く。

